

## STEP 3

### 三脚を使ったほうが構図も安定

三脚は手ブレしないようにカメラを固定するだけが目的だと思われがちだが、それだけではなく、三脚を使うことで、落ち着いてきっちり構図を決めることができる。

例えば、建築物などの撮影では、水平や垂直が微妙にずれてしまいがちだ。そこで、し三脚で固定することで、水平、垂直をきっちりと時間をかけて合わせる事ができる①。また、夜景撮影でも少し触れたが、1つのカットを何段階も露出補正して撮る場合、三脚で固定しておけば同じカットを何枚でも撮ることができ。

このように、手ブレを防ぐだけでなく、構図を決めるために、手ブレの心配がない明るいうちでも三脚は有用なのだ。なお、確かに三脚は有用なアイテムだが、動きのあるスナップ写真などで三脚を使っていては、手軽さが失われる。要是、撮りたい写真表現に応じて、三脚を使うか使わないかを判断することが大切②。

### ① 水平、垂直をきっちり出すには三脚が必要



住宅のインテリア撮影。水平、垂直だけでなく、正面の窓にたいしてきちんと正対しているの、すっきり見える。こうした、厳密な構図の調整は、三脚でカメラを固定しないと困難(D80 / 1/15秒 / F9.5 / 10ミリ(15ミリ相当))。

## STEP 4

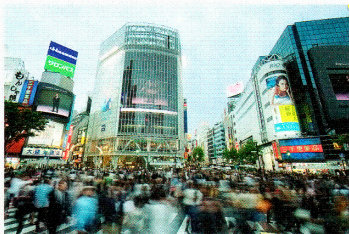
### カメラならではのスローシャッターによる表現

三脚を使う目的の一つにスローシャッターを使いたいから、というのがある。これは、カメラを長時間固定して露光することで、被写体が動く奇跡を写すという、写真ならではの表現手法だ。

多くの場合、被写体がブレて写らないように高速にシャッターを切る。だが、三脚にカメラを固定し、被写体以外を完全に止めてしまえば、被写体の動きを一枚の写真に収めることができる①。

例えば、建物は動かないが、人や車は動いてブレる①。風景写真でも、岩や地面は動かないけれど、流れる水や風に揺れる木々はブレる②。こうした動きを一枚の写真で表現するためには、シャッタースピードを遅くして、被写体をわざとブラスわけだ。

### ① 街の群衆の流れをスローシャッターで表現

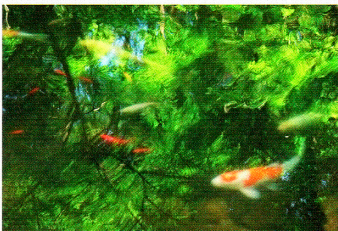


東京・渋谷のスクランブル交差点を行き交う群衆。夕暮れ時とはいえ、決して手持ち撮影が不可能な明るさではなかったが、群衆の流れを表現したかったので、三脚を使ってスローシャッター撮影。シャッター速度を変えて、出来る上る写真の雰囲気も変わってくる(FinePix S2 Pro / 1/2秒 / F16 / 10ミリ(15ミリ相当))。

ドと絞りの組み合わせを変えて、被写体がブレる度合いを何段階か試してみよう。そうしているうちに、通常の肉眼では見えないような視覚効果を得られ、思わぬ傑作写真に仕上がる可能性もある③。

このように、1つのシーンをさまざまな表現で撮影できるからこそ、重くても三脚を持ち歩くわけだ。

### ② 動きのない景色の中に動く物を見つけた時が狙い目!



池の水面に映る木々の緑が綺麗だったので狙ってみた。あえてスローシャッターにしたわけではなく、晴い場所だったので必然的にスローシャッターになってしまったのだが、結果的に揺れる水面に写る木々の緑が適度にブレて絵画的なトーンになった(D80 / 1/8秒 / F5 / 52ミリ(78ミリ相当))。

### ③ スローシャッターで光跡を写真にしてみよう



通常なら数秒間の露光でも夜景は充分写るのだが、車の流れを意識して、さらに長い露光時間にした。道を走る車のライトが光の線となって写っている(FinePix S2 Pro / 15秒 / F22 / 102ミリ(153ミリ相当))。